

# 笑ってごらん

第 613 号 H. 30. 2. 14 発行

～今日のことば～

「他人」と「過去」は変えられない。

「自分」と「未来」は変えられる。

(カナダの交流分析提唱者：エリック・バーン)

◇◆久しぶりの発行。先週は大雪に対する対応やらで神経をすり減らしていたので、原稿作成どころではなかった。2月に入って「大寒波襲来」ってことで、全国的に大雪に見舞われた。ここ南さつま市もその影響を受け、5日(月)は授業開始を遅らせ、短縮授業を3～6限実施、15:30には下校バスを出した。翌6日(火)は臨時休校、7日(水)は授業開始を2限目からとした。南さつま市は周囲を山に囲まれているので、スクールバスはほぼ全便峠越えとなる。平地では雪の影響が無くても、峠は積雪や凍結によりチェーン規制や通行止めになっているケースがある。事実、昨日13日(火)の登校便についても峠の凍結によるチェーン規制の影響で約30分延着した。今年は慣れない雪に悩まされることが多い。



天気予報を見る限りでは、今後は少しずつ暖かくなっていくようであるが、まだまだ油断はできない。私自身、この雪で慎重にならざるを得なかった。というのも、滑って態勢を崩してしまうと腰に激痛が走りヘルニアが悪化してしまう恐れがあるからだ(くしゃみも怖い...)。今回は特に、雪道の歩行や車の乗降には細心の注意を払った。個人的にもこれ以上の雪はゴメンだ。◇◆10日(土)の全体朝礼講話内容から。「君は基礎基本が身につけていないから、応用ではなく基礎からできるようにしなさい」そう言われて何となく納得したもの、どの問題から解いたらいいのかわからない。そもそもどの問題が基礎か応用か自分ではわからない。ノートを一通り眺め、先生の説明を思い出せば何とか解けるので、その問題は自分にとって解答可能だと判断し、試験勉強終了。しかし、実際に試験では思うようにペンが進まず結果は悲惨...。こんな経験をしたことはないか? 基礎基本が大切であることに異議を唱える人はいないと思う。では、どのようにして基礎基本を定着させればよいのか。それは手元にある模範解答を見ずに、解答を自分の頭で考え自分の手で作り上げる。それができて初めて基礎基本が身につく。乏しい授業の記憶を頼りにしながらノートや解答解説を「ただ眺める勉強」では、絶対に基礎基本は身につかない。日本の武道や古典芸能は「型」を大切に。師匠の一挙手一投足を細かなところまで観察し、それをもとに実際に自分で何度も何度も繰り返す。師匠のお墨付きがもらえるまで途方も無い年月と根気が必要となるが、本来、基礎基本とはこんな風に身につけていくのだろう。「型破り」な人間がもてはやされる風潮もあるが、「型」が身につけている者にしか「型」は破れないことを忘れてはいけない。学校の試験において試験範囲がわかったら、その範囲すべてを自力で解けるようにするために、いつからどれだけやればよいかを逆算し実行する。これを全教科やる。これが基本である。これを身につけた者が模試や入試・資格試験で結果を出せることを覚えておいて欲しい。

## 感謝道

◇◆11日(祝)、看護学科入学説明会であった。看護師を目指すキラキラしたまなざしの生徒たちが集結していた。保護者のみならず、中には祖父母まで来校されている家庭も見受けられた。特に、この日は一日中冷たい強風が吹きすさぶ状況であったので、来校された皆さんは大変だったと思う。しかしながら、「看護師になるぞ!」「頑張るぞ!」という前向きな温かい気持ちの方が勝っていたのかも知れない。学科のこと、学校のこと、入学式までの準備・心構え、奨学金のこと、新しい教育システムのこと等々、受ける情報量の多い一日だけだけに疲れたことだろう。まずは、春休みの内に中学校の学習の総復習をして本校の入学式を迎えて欲しい。